



こんなことで
お困りではないですか?



シー・ティアなら

ノズル、操作パネル、便座ユニットなど、18か所の交換パーツで長期使用に対応。新品に交換するよりも経費を削減できます。

交換パーツで 経費削減



日本下水文化研究会

次回

リレーコラム

今回の下水文化研究会コラムは、高村哲さんからバトンタッチして森田 英樹さんが担当します。

森田さんは、トイレの歴史や文化についての研究家として知られています。
さて、どんなお話を聞くことができるでしょうか。

糞石のはなし

「かわや版」愛読者のみなさんは、尿石についてはもう御存じのことと思います。そのため、今回は糞石を御紹介してみましょう。糞石はコプロライト(coprolite)と呼ばれ、コプロは「糞」ライトは「石」を意味するギリシア語が語源であり、まさに糞が化石化したものでした。写真の糞石はアメリカ、ユタ州で産出された植物食恐竜の糞石で、今から約2億1200万~1億4300万年前のジュラ紀のものです。ジュラとはフランスとスイスの国境にあるジュラ山脈から命名されました。素人目には、どこからどのように見ても重さも固さも单なる石しか思えません。糞の化石と信じて騙されるより仕方がないように思えます。

では、この单なる石が、いかにして糞の化石と認識されたのか、その歴史と奇な運命を簡単に紹介しましょう。時は19世

紀、イギリスのライム・レジス海岸に分布する地層の中に、奇妙な石が発見されました。その石の形がペゾアール山羊の胆嚢にある結石の形に似ていたため、「ペゾアール石」となづけられました。やがて、魚竜類の化石の腹部に、多数の「ペゾアール石」があることが確認されました。魚竜とは、大きさ習性とともに現在のイルカのような爬虫類であり、恐竜時代に世界の海に広く分布していました。「ペゾアール石」が発見された位置が腹部であったことから、先に海岸の地層で発見された「ペゾアール石」は、糞が化石になったものであるとされました。1829年のことです。

さて、その後発見された多くの糞石には、リン酸カルシウムが含まれていることが分かってきました。この「リン」が糞石の運命を大きく変えることになったのです。リンは植物の成長に欠かせない肥料です。当時ヨーロッパでは肥料が不足していました。そのため、これらの糞石は肥料として組織的



に大規模に採掘され、粉碎し肥料として使用されました。イギリスのサフォーク州では肥料として採掘された糞石は実に200万トンに達したと言われています。こうして糞石は古生物学的研究ではなく、肥料資源としての歴史を歩むことになったのです。



糞石

トイレ歳時記 9月

9月1日は防災の日です。東日本大震災の際には発災後6時間で約7割の人がトイレに行きたくなったという調査があります。断水や下水道の破損で水が流れなくなる事態が想定されます。非常用のトイレの準備を確認しましょう。トイレットペーパーの備蓄も忘れずに…。

編集後記

3年ぶりに韓国に行ってきました。ビザやPCR検査など、以前にはなかった手続にかなり手間取りました。韓国でもコロナウイルスがまだ猛威を振るっていますが、夏の暑さもあり屋外ではマスクを外してマスク掛けで首にマスクを下げている人が目立ちました。まだ安心できる状況ではありませんが、少しづつ以前のような生活を取り戻していくのではないかと感じました。(セルベッヂオ中嶋)

あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル ☎0120-57-1110

2022 秋号
vol.98

特集

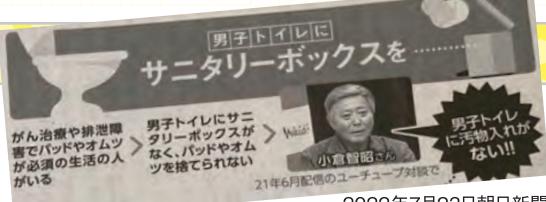
男子トイレにも サニタリーボックスが 欲しい!!

女子トイレにはおなじみのサニタリーボックス(汚物入れ)ですが、近年「男子トイレにもサニタリーボックスが欲しい」という機運が全国的に高まっています。男子トイレのサニタリーボックス設置の現状や必要とされる背景などについて取材しました。

小倉智昭氏の告白

2019年、キャスターの小倉智昭氏が膀胱がんの手術後、排泄がコントロールできず、尿漏れパッドを使用していることを番組で公表しました。それまで公に語られることのなかった「おむつ」や「尿漏れパッド」(以下「排泄補助具」とします)の問題。この告白が反響を呼び、同じような経験をした方からも「男性トイレにサニタリーボックスを」という声が上がり始め、新聞各社やテレビなどで男性トイレの汚物入れ問題が取り上げられ、話題が広がっています。

男子トイレに汚物入れを



2022年7月23日朝日新聞

男性トイレに汚物入れ、さいたま市が全ての区役所に設置完了へ
前立腺がん、ぼうこうがん治療の男性に便利

7/23(火) 01:34 閲覧 395

Facebook

男性トイレにも汚物入れ がん患者必要、設置広がる

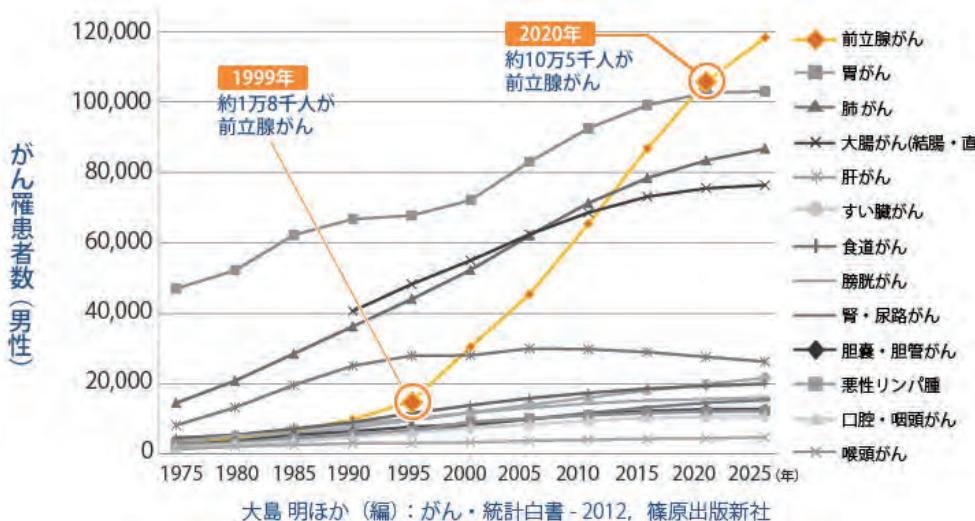
5/1(日) 15:14 閲覧 1018

Facebook

KYODO

口にしづらい切実な願い

疾病と排泄の問題



一社)日本トイレ協会運営委員 寅太郎さんのお話

私は先天性変形股関節症で、30歳頃から痛み止めを飲まないと生活ができなくなりました。40代後半からは飲み薬に加えて結構大きな座薬を1日3回入れないといけなくて、夜も眠れなくなりました。すると座薬でスツツのお尻の部分にシミが広がることもあり、女性の生理用ナプキンを55歳まで約5年間、毎日当てていました。当時は尿漏れパッドなどはなかったので…。汗をかくのでナプキン

は1日何回か取り替えないといけない。夏は1日3、4回にもなります。しかし男性用トイレには捨て場がない。特に、出張のときは一日中交換できないときもあり困りました。でも、当時はこんなことは誰にも言えませんでした。こういった話をできるようになって、意外と身近にも同じ悩みを抱えている人がいたんだということが分かってきました。

特集 男子トイレにもサニタリーボックスが欲しい!

日本トイレ協会による実態調査

排泄補助具の使用の実態を把握することを目的に、2022年に2回にわたり日本トイレ協会による実態調査が実施されました。(2回目の調査は2022年8月、調査継続中)

日本トイレ協会の会員を中心に行った調査の結果によると、女性の16%、男性の12%がなんらかの排泄補助具を使用していることが分かりました。年代が上がるほど割合は高くなっています(図A)、70代以上では24.1%の人が排泄補助具を使用しています。排泄補助具を使用する男性の68.4%が男性トイレにサニタリーボックスがなくて困った(図B)経験をしています。

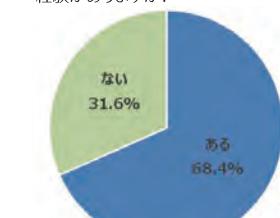
また、排泄トラブルを抱える人を対象にした調査では、「排泄補助具を捨てる場所がない」という困りごとは、女性で

はほとんど回答がなかった一方、男性では外出時の困りごとの第1位になっています。同調査では、男女ともに排泄トラブルが原因で外出を控えたことがある人が半数以上に上る(図C)ということも明らかになりました。外出を控えることはQOL(生活の質)が損なわれ、認知症の進行にもつながります。

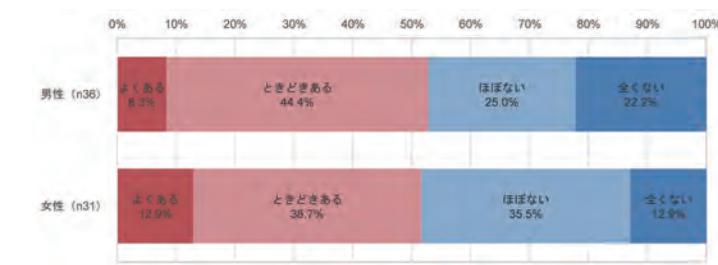
●図A 年齢別排泄補助具使用割合



●図B サニタリーボックスがなくて困った経験がありますか?



●図C 排泄トラブルが原因で外出を控えたことがありますか?



図A,図B…2022年2月1日～2月22日まで、インターネット(トイレ協会会員ほか、SNSで回答者募集)で調査。557人が回答。

図C…2022年6月18日から現在調査中。排せつトラブルを抱える当事者とその介助者を対象にインターネットで調査。7月8日時点76人が回答。

広がる設置事例

こうした現状を受け、男子トイレにサニタリーボックスを設置する動きが広がり始めています。現在、埼玉、神奈川、愛知、岐阜、鳥取、佐賀、熊本の7県と、全国74の市町では、公共の施設で男子トイレにもサニタリーボックスを設置すると発表しています。民間でも、自動車販売店や電機店、ホテルなどで具体的に設置を発表している企業も出てきました。また、高速道路のパーキング

エリアなどでも、おむつを使器内に捨てられ詰まってしまったという経験から男子トイレにもサニタリーボックスを設置しているという事例もあります。



今後の課題

しかしながら、男性トイレへのサニタリーボックスの設置には、「排泄補助具以外のゴミが捨てられる懸念」「回収や維持管理の負担」「適切な大きさや設置場所の検討」など、これから議論を重ね、解決していかなければならぬ問題もあります。男子トイレへのサニタリーボックスの普及はまだスタート地点に立ったばかりと言えるでしょう。誰でも排泄の問題を気にせずに外出を楽しめる社会

が早く実現することを期待しています。



学校のトイレは今

定着してきた感染症対策とバリアフリー化加速の兆し

TOTOなどトイレ関連6社による研究活動組織、

学校のトイレ研究会は、研究会研究誌

25号「学校トイレの挑戦!2022」を発行しました。

研究誌では学校トイレの最新実態と現場の声を毎年報告しています。

2021年度に実施された調査を元に学校トイレの現状を見てみましょう。

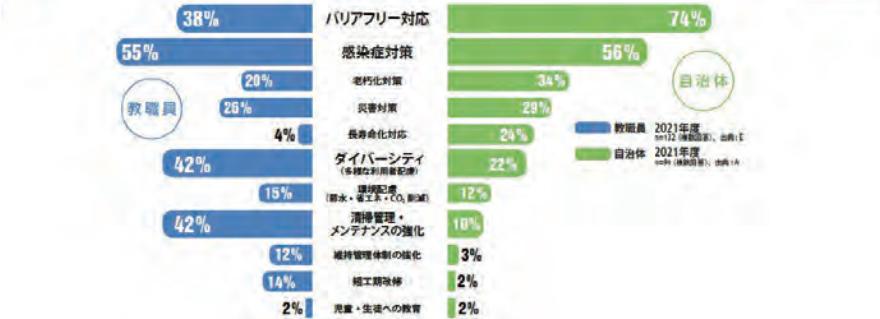
「トイレ」と「廊下の手洗い場」改善が必要

全国の公立小中学校教職員を対象にしたアンケート調査の結果では、学校で、児童・生徒のために施設改善が必要と思われる場所は「トイレ」が62%と最も多く、続いて「廊下の手洗い場」が61%となりました。特にトイレは、2009年度以降、4回の調査結果すべてにおいて唯一、過半数を占め、最上位となっています。廊下の手洗い場は2021年度調査で新しく加わった項目ですが、これも他を大きく上回る数字となりました。

Q1 学校で、児童・生徒のために施設改善が必要と思われる場所はどこですか?



Q2 今後、学校トイレの整備を考える上で、特に重要だと思うことは何ですか?



があるとする自治体が50%、目標未定・計画なし50%と、二分する結果となりました。バリアフリーが重要という認識はあっても、車いす使用者用トイレの計画が決まっていない自治体が多いということもわかりました。

学校トイレ整備における性的マイノリティ配慮の必要性に対する教職員の認識は、「必要」「どちらかといえば必要」の合計が87%という結果になりました。また、性別に関係なく使えるトイレがある方がいいとの回答は9割以上を占めました。

『学校トイレの挑戦2022(25号)』では、詳細な調査結果や文部省インタビュー、トイレ改善の取り組み事例なども紹介されています。学校トイレ研究会ホームページから、無料で閲覧・取り寄せることができます。https://www.school-toilet.jp/

Toilet Topics

